

薬の力 効き方いろいろ

小中学生が薬の製剤を体験する講座が16日、松山市文京町の松山大であり、真内の小学5年～中学3年の20人が実験などを通じて錠剤の製造過程や薬の成分などを学んだ。

小中学生を対象にした科学技術振興機構(埼玉県)のジュニアドクター育成事業の一環。実施機関の愛媛大が、包括協定を結ぶ松山大薬学部の協力で初めて開催した。

薬学部の教員が、薬には錠剤や粉薬、飲み薬などがあると説明し、「打錠機」で薬などを固めて錠剤ができる様子を披露。「製薬会社の大規模設備では1時間に30万錠製造できる」などと解説し、児童や生徒は熱心に機械をのぞき込んだ。

胃と小腸の中を想定した2種類の

液体に複数の錠剤を入れ、溶け方を観察する実験も実施。薬の用途で溶け方や溶ける時間に違いがあることを学んだほか、手動の打錠機で模擬錠剤を作り硬さや重さを確認した。

将来、獣医師になりたいという松山市清水小5年橋本夢実さん(10)は

「薬は全て同じ大きさや効き方だと思っていたので種類や用途で少しずつ違いがあると知って面白かった」と充実した表情。薬学部の坂本宜俊准教授(46)は「小中学生は薬学に触れる機会が少ないので、講座をきっかけに興味を持ってもらい将来医療や薬学系に進む人が出てほしい」と話した。(菅亮輔)

読もう!



松山大

小中学生20人実験に真剣



手動の打錠機を使って模擬錠剤作りをする子どもたち